

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和6年5月14日

事業所名 世界ちゃんとモゲル丸先生の元気な仲間たち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・活動内容や時間帯によって、部屋を分けている。	・利用定員に対してのスペースは適切であるが、今後も安全の確保等、活動内容に応じて部屋を分ける等して支援を行う。
	2	職員の配置数は適切である	○		・時間帯によっては、基準以上に配置して支援を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・歩行が不安定な利用児には、移動の際には常に職員が付き添っている。	・今後も、エレベーターを使用したり職員が付き添ったりして安全に支援を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・年間目標の設定や振り返りを職員会議で行い、業務改善につなげている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・年に1回実施し、結果を職員全員が把握し業務改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページで公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・外部評価は行っていないが、相談支援専門員や他の事業所の方の意見を聞き、業務改善につなげている。	・第三者による外部評価について検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・教育委員会を設け、研修の機会を確保している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・定期的にあセスメントを行い、個別支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・事業所で作成したアセスメントシートを活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・職員会議で話し合い、子どもたちが楽しみながら色々な体験ができるように考え、活動プログラムを作っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・季節行事等を取り入れ、活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・平日と休日・長期休暇に応じてプログラムを変更して活動を提供している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・子どもの状況に応じて、その子に合った個別活動や集団活動を組み合わせ支援を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・支援開始前には、当日の流れや支援内容・役割分担等の確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・支援終了後には、支援中の気づきや気になったこと等を伝え合い共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・業務日誌・個別記録・連絡帳に、その日の体調や活動内容・活動の様子・気づいたことを記録し、定期的に振り返りを行っている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・定期的にモニタリングを実施し、現状把握・振り返りを行った上で計画の見直しを行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		・総則の基本活動を複数組み合わせ合わせた支援を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・サービス担当者会議には、児童発達支援管理責任者が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・学校との情報共有・連絡調整は適宜行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		・受け入れの際には、担当者会議にて情報共有や連絡体制の確認を行った。(現在、医療的ケアが必要な児童の利用はない。)	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・必要に応じて、情報共有と相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・移行の際には、支援内容等の情報提供を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		・今後、必要に応じて検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		・今後、必要に応じて検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		・参加の機会があれば検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・送迎時や連絡帳でのやり取りを中心に情報共有を図り共通理解に努めている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		・送迎時や連絡帳でのやり取りやモニタリングの際、必要に応じてアドバイスを行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時、利用契約書や重要事項説明書を通して丁寧に説明することを心がけている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・その都度、状況に応じて適切に対応するように心がけている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			・令和5年度は保護者会の開催ができなかった。保護者様同士が交流できるよう検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・苦情や要望の受付については、契約時に説明を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月お便りを発行し、活動の様子や行事予定を伝えている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		・個人情報は十分に注意して保管・取り扱いを行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・子どもの特性等を把握し配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・各マニュアルを策定し、職員間で周知している。	・各マニュアルの保護者様への周知方法について検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・定期的に避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待防止委員会を中心に、研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			・対象となる利用児はいないが、身体拘束については身体拘束適正化委員会を中心に研修を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・事前のアセスメントで、保護者様より詳しく情報をいただき、職員全員が把握して対応している。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・ヒヤリハットについて職員間で共有し、事故防止に努めている。		